

これまでの意見整理と分野の再整理

地域課題アンケート等で出された意見			第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理	
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見		ステップ2. 審議課題になりそうなもの
障がい者福祉	障がい者の地域での見守りについて	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の地域移行、地域包括支援センターのための地域医療と福祉の連携～地域医療の現状～ ・障害のある人たちの子育て、普通の人とともに子育てできるような取組が大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区地域自立支援協議会の取組 ・隔月で障害福祉に関する課題等についてテーマを設定し、情報交換や交流を行うとともに、より具体的な課題解決のために委員会を設置し活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会があまり機能していないと思う。 ・市内に障がい者施設が多いが、あまり利用されていない。施設について知らないのか、利用しないのか ・障がい者、高齢者か、施設が知られていない。 ・障がい者について、もっと知る必要がある ・地域で障がい者、高齢者を見守っていく方法（地域の連携） ・見守りについて、個人情報、プライバシーがあるので難しいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者施設をもっと知ってもらい、利用してもらう取組が必要である。 ・誰でも障がいに関係なく活発に活動できるしくみ 	<p>①障がい者、子ども、高齢者の地域での見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の見守りの仕組みづくり ・障がい者についてもっと知る ・障がい者施設をもっと知ってもらい、利用してもらう ・誰でも障がいに関係なく活発に活動できるしくみ ・貧困の子どもの見守り
その他福祉	生活保護受給者の自立支援	<ul style="list-style-type: none"> ・私達の地元では、生活保護者が多い様に思われます。昼間からパチンコ・飲酒をしている人をよくみかけます。もっと生活保護者の規定を厳しくしてほしいと思います。 		<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の子どもの見守りも必要だと思う。 		
高齢化社会に向けて	多摩区の高齢化社会へ向けての課題整理と取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉については、主に高齢者福祉の問題について山・坂の多い地域でどのような対策があるのか検討したい。 ・「一般人口統計2013年版」によると2010年（平成22年）の日本の高齢化率は23.02%と主要国のなかでも、ダントツの状況である。 ・また、テレビなどの報道にあるとおり、高齢者の孤独死、認知症・徘徊、万引き、自動車事故等が連日報道される状況となっています。 ・これには、様々な要因がありますが、高齢化がそのまま進行し高齢者問題がさらに増え続けるならば、若い世代への負担が厳しいものとなることは確実です。 ・この問題に対してすぐ思いつくのは、医療や介護というテーマとなりますが、ひとつのキーワードとして、高齢者が自立していける「生涯現役」ではないでしょうか。このテーマのもとに高齢者問題への提言をまとめていきたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムにおける「地域ケア会議」の課題として交通障害について課題として、市に提起 ・「ひとり暮らし等高齢者実態調査」により、日頃の見守り活動が必要な高齢者の訪問活動を、民生委員により実施している。 ・「災害時要援護者避難支援制度」の登録をとおして、平常時を含めた支援について自治会等で協議を進めてもらっている。 ・「チーム・たま」の自主組織は、在宅療養の推進のため、医療と介護の連携について協議・研修・普及活動を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守るべき高齢者がわかるようになることが良い。 ・高齢者の見守りについては、団体と連携するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の見守りの仕組みづくり 	

地域課題アンケート等で出された意見				第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	ステップ2. 審議課題になりそうなもの	
高齢化社会に向けて	高齢者の生きがいづくり・場づくり・仕掛けづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の地域参画への支援。超高齢社会へ進展の中で健康長寿・健康長寿社会構築へ向けての高齢者の生きがいづくり・場づくり・仕掛けづくり。 		<ul style="list-style-type: none"> 生きがいの場って本当に足りないのか把握したい。 		<p>②高齢者の生きがいづくり・場づくり・外に出る機会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が外に出たくなる機会づくり 元気な高齢者による子育て支援の仕組みづくり 高齢者が安全に外に出られる環境づくり
	高齢者が外に出られる機会づくり、情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者のコミュニケーションについて 高齢者、とくに男性にその傾向があるが、毎日単調な生活を家の中で過ごしており、他人との接触は少なく、時の流れを意識しにくい。また生活の場に変化がないため環境の変化を嫌う。結果として意識や注意力の低下が起こり、ぼんやりとした狭い世界感の中で暮らすためコミュニケーションがとりにくい。自発性を持った行動を起こさせ、意識や注意力が発揮できるような場、賑やかで楽しいと感じるお祭りや趣味などの集まりに参加できるような工夫が必要と思われる。イベントカレンダーの利用法について、更なる工夫が必要であろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニティカフェ」を開催し、気軽に外出して地域の人達が交流することを目的としている。また、認知症予防や家族介護者の負担軽減につなげる場として活動内容を広げているものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブは、高齢者を外に出す良いきっかけだと思うが、加入する人が少ない。老人クラブをもっと活かすべきだと思う。 ・公園でやっている高齢者の体操はあまり魅力的ではないと思う。高齢者の運動をもっと魅力的にすれば、もっと外へ出てくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の取組を周知したり、見直して、高齢者が外に出たくなる機会をつくる。 	
	誰でも安心して移動できる手段について	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設を含む不特定多数が訪れる施設への交通アクセス～現状の調査からの提言 	<ul style="list-style-type: none"> ・長尾台コミュニティバスの運行（H26秋～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの導入については、過去の区民会議で何度か検討されているが、実現されるのかどうかははっきりしてほしい。 ・外に出やすいために歩きにくいと思う舗装、交通など（ハード面） 	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の高齢者にとって危険な箇所をチェックする。 	
	地域における高齢者の支援体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・少し矛盾するが、閉じこもり気味で一人暮らしを好む人に、人とのコミュニケーションを無理に求める必要はないと思われる。人の生き方はそれぞれ自由であり、他人に迷惑をかけない限りそれは認めるべきでしょう。時代の変化があまりに急速なため、日本人特有の人への思いやり、親和性、協調性は今、薄れているのが実情です。しかし山坂の多い多摩地区での独居高齢者には、それぞれの地区での生活支援体制を作ること、本会の検討課題にしたい。 ・人は皆、在宅で人生を全うしたいと思っています。多摩区には在宅医療に取り組んでいる複数の医師がいます。高齢の障害者には医療と同時に看護、介護などの福祉サービスが必要です。それらを連携させた医療、介護サービスを提供するシステムを作っている最中ですが、すでにこのサービスを受けている患者さんがいます。皆さんの中でそのような方がおられましたら、ご自分の主治医、多摩区医師会、多摩区保健所、福祉関連事業者などに連絡してください。私でも結構です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニティカフェ」を開催し、気軽に外出して地域の人達が交流することを目的としている。また、認知症予防や家族介護者の負担軽減につなげる場として活動内容を広げているものもある。 ・「チーム・たま」の自主組織は、在宅療養の推進のため、医療と介護の連携について協議・研修・普及活動を展開している。 			

地域課題アンケート等で出された意見				第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	ステップ2. 審議課題になりそうなもの	
高齢化社会に向けて	地域における高齢者の支援体制について	<p>自宅で病氣、障害を治す努力をすると、自力で治そうとする力が湧いてきます。例えば家族に迷惑をかけるかもしれませんが、施設に入所するよりはるかにましです。介護施設に入所して生活のすべてに介護を受ければ、廃用症候群が進み、社会復帰は不可能になります。</p> <p>○認知症について 最近物忘れが激しい、このまま進むと認知症になるのではないかと心配する高齢者が増えています。忘れる、思い出せないは記憶障害ですが、それは認知症の一部です。人間の脳は数千億個の神経細胞と、細胞から出ている神経線維が絡み合うネットワークを構成しています。そのネットワークの中に貯蔵されている記憶を想起し、検索する必要があります。その働きをするのが作業記憶と云われるもので、脳の前頭葉に中枢が存在しています。高齢になるとその作業記憶の働きが鈍ってきます。だから簡単に思い出せないのです。大切な記憶はあなたの脳内に確りと残っています。また軽度の脳萎縮や脳梗塞ぐらいでは脳内のネットワークは十分に働いています。</p> <p>認知症で問題になるのは、徘徊、失踪などの問題行動でしょう。これは前述の意識の暗さ、もうろう状態、注意力の低下などが原因で自分のことが分からなくなった状態で起こると云われています。多摩区だけの問題ではありませんが、最も苦労されている家族のために、その対応に関して医師や介護者などの専門科による相談窓口を多摩区に作る必要があると思われまます。</p>		<p>・身体のだこかに不自由なところがあっても、自立して生きていこうと思う高齢者は、元気高齢者である。元気高齢者の定義を見直したい。</p>		<p>②高齢者の生きがいづくり・場づくり・外に出る機会づくり</p> <p>・高齢者が外に出たくなる機会づくり</p> <p>・元気な高齢者による子育て支援の仕組みづくり</p> <p>・高齢者が安全に外に出られる環境づくり</p>
		<p>○認知症について 最近物忘れが激しい、このまま進むと認知症になるのではないかと心配する高齢者が増えています。忘れる、思い出せないは記憶障害ですが、それは認知症の一部です。人間の脳は数千億個の神経細胞と、細胞から出ている神経線維が絡み合うネットワークを構成しています。そのネットワークの中に貯蔵されている記憶を想起し、検索する必要があります。その働きをするのが作業記憶と云われるもので、脳の前頭葉に中枢が存在しています。高齢になるとその作業記憶の働きが鈍ってきます。だから簡単に思い出せないのです。大切な記憶はあなたの脳内に確りと残っています。また軽度の脳萎縮や脳梗塞ぐらいでは脳内のネットワークは十分に働いています。</p> <p>認知症で問題になるのは、徘徊、失踪などの問題行動でしょう。これは前述の意識の暗さ、もうろう状態、注意力の低下などが原因で自分のことが分からなくなった状態で起こると云われています。多摩区だけの問題ではありませんが、最も苦労されている家族のために、その対応に関して医師や介護者などの専門科による相談窓口を多摩区に作る必要があると思われまます。</p>		<p>・認知症の相談窓口があると良いと思う。</p>	<p>・高齢者や高齢者がいる家庭の相談窓口づくり。</p>	
	<p>元気な高齢者を増やす取組について</p> <p>・高齢者になるのは仕方ないですが、老人になってはいけません。老けてはいけません。偉そうに云わせていただければ、これは医療者としての私の哲学です。長寿遺伝子を研究している多くの学識者が語っています。一般には人間の寿命は、人らしく生きられれば120歳というのが相場です。フランスの女性で124まで生きた人がいます。今、日本では100歳長寿は珍しくありません。問題は自分のことは自分で出来る、人の世話にならない所謂元気高齢者で長寿になることです。現在、日本人の平均寿命はおおよそですが、男性80歳、女性88歳と云われていますが、前述の元気高齢者になると両者とも7歳引いた年齢です。我々はまずは100歳まで生きるぞというくらいの気持ちが必要で。遺伝子はその人が長生き出来るように変化すると云われています。専門用語でエビジェネティクスと呼ばれています。</p>					

地域課題アンケート等で出された意見				第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	ステップ2. 審議課題になりそうなもの	
高齢化社会に向けて	元気な高齢者を増やす取組について	<p>・私の老人にならない心構えの一つに、歳相応に生きるという考え方を止めることです。それは自分の精神体力を自分で勝手に決めて、内に秘めている未知なる力を引き出すことが出来なくなるからです。</p> <p>具体的には食事、水、運動、ストレスを避けること、趣味など積極的な人生を送るなど一般的に云われていることについては詳細を省きます。中でも多摩区で特徴的なことは、各地区で健康体操が盛んに行われています。運動することは老けないための必須条件です。またあまり知られていませんが、川崎の水の質の良さも健康に欠かせません。多摩区には浄水場がありますが、高齢者は慢性的な軽度脱水状態にあることはあまり知られていません。しかし私は健康に関する講演で、元気高齢者の方が健康のため毎日1リットルの水を飲んでいるという話をよく聞きます。感心させられます。</p>				<p>②高齢者の生きがいづくり・場づくり・外に出る機会づくり</p> <p>・高齢者が外に出たくなる機会づくり</p> <p>・元気な高齢者による子育て支援の仕組みづくり</p> <p>・高齢者が安全に外に出られる環境づくり</p>
若い世代の定住促進	地域での子育て環境づくり	<p>■子育て何でも相談センターの設置</p> <p>・少子対策の重要性は改めて説明することは不要、今求められているのは子育て世代が何を困っているのかを知ること、それに対し具体的に何ができるのかである。</p> <p>・行政には「保健福祉センター児童家庭相談サポート担当」等、相談窓口は存在するが、行政として対応できる範囲に限られているであろうし、また敷居が高く感じる方もいるのでは。</p> <p>・そこで「子育て何でも相談センター」のような相談窓口を設置し、その運営、相談員はNPO法人に委託する。そこは子育て支援についての官民全ての情報を把握しアドバイスする、不足しているサービスを生み出すことも企画する。</p>		<p>・元気な高齢者に子育て支援に関わってもらったらどうか。高齢者の生きがいにもつながる。</p>	<p>・元気な高齢者による子育て支援の仕組みづくり</p>	<p>③子育て支援</p> <p>・区内の子育てに関する取組を整理して、子育て世代がもっと活用できるような仕組みをつくる</p> <p>・多摩区の子育てに関する問題点を整理し解決策を検討する。</p>
		<p>子育てに関する事でも親子関係のコミュニケーションが難しくなっています。コミュニケーションについて考えていきたいと思えます。</p>		<p>・区内でさまざまな団体が子育て相談をやっていると思う。</p>	<p>・区内の子育てに関する取組を整理して、区民がもっと活用できるような仕組みをつくる</p>	
		<p>・子育て支援・育児や教育など若者が結婚し子供を産み育て定住志向を育む環境づくり・まちづくり。</p>	<p>・公園を拠点としたコミュニティづくり推進事業（多摩区公園BOOK作成など）</p> <p>・子どもの外遊び事業</p>			
		<p>・範囲が広がるが、子育て中の人、園児小学生等々に絞る問題点をあげ解決してゆきたい。</p>				

地域課題アンケート等で出された意見			第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理	
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見		ステップ2. 審議課題になりそうなもの
地域の活性化	地域資源を活用した地域の活性化の方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・生田緑地を中心にして多摩区観光の拠点として周辺地域を集客により街中に活力をもたせる安心安全な街づくりの組織づくりをする。 ・介護不要の健康な高齢者の区にしたい。多摩区の将来像は、自然と観光、大学のまちがイメージとして相応しい。市北部の中心は、新百合ヶ丘になりつつあると思う。 ・多摩区には、観光スポット生田緑地がありますが、いつでも行けるということで、地元の人々があまり利用していない。一つの例ですが、日本民家園が、古民家が25棟もあるのは日本一である事を知っている人は少ないと思います。もっと生田緑地に足を運んで生田緑地の素晴らしさを内外に伝えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区ガイドマップ、観光ガイドブックの作成・発行、地域イベントへの参加や広報支援、観光ボランティアガイドツアー（区観光協会） ・藤子・F・不二雄ミュージアム周遊マップの作成・発行、大学生による地域の魅力発信（区役所） ・生田緑地★星空コンサートの開催（区役所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生田緑地、古民家は素晴らしい観光資源、その価値を顕著化 →旅行会社とタイアップ、外国人の集客を ・資源をどうやって活かすか、その方法は何か（ナイトバザール等のイベント） ・地元がうるおう仕掛けが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区の区民が区の魅力を再発見 ⇒次世代につなげる（多様な資源がある） 	④区の魅力の再発見と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・生田緑地(古民家)、地域の伝統文化等の地域の魅力の再発掘 ・地域の活性化につながる仕掛けづくり
子どもの遊び場づくり ⇒地域での子育て環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区の商業・業務の中心地区として快適な市街地を形成することを目的として40年前に事業計画、27年前に事業決定している登戸土地区画整理じぎょうもまだ50%しか進んでおらず、道路を造るだけでは街にならず当初の目的通りに進んでいない現状です。公園も最後になり、区画整理地区内には1つの公園もありません。近くの保育所でも遠くまで外遊びに行かなくてはなりません。事業用地で遊んでいれば「ここは遊び場ではありません」の看板が立ち、まだ30～50年かかる区画整理で区民から見ても地域の活性、子育て支援、多摩区の顔になる街にはほど遠いように思います。 		<ul style="list-style-type: none"> ・登戸区画整理事業と連携させた生田緑地のあり方活用 その価値をどのように活かすか 			
多摩区の歴史・文化の継承の方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区には85年前から唄い継がれている多摩川音頭という北原白秋さん作詞の歌があります。 ・土地の名産品や名所・旧跡が盛り込まれて村の暮らしぶりや風情が伝わってくる唄です。 ・今は唄える人、踊る人の数も激減していますが、大切に残していきたい伝統芸能だと思います。この多摩川音頭だけではなく数ある多摩区の文化財・文化資源・伝統芸能の保存・継承についてを課題として提案させていただきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「多摩川音頭を伝え継ぐ」の発行（区観光協会、稲田郷土史会） ・区ガイドマップ、観光ガイドブックの作成・発行（区観光協会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能は地域に内在する資源だが、継承者の高齢化等により失われつつある ・日本民謡100選の一つが多摩川音頭。歌詞が地域性を示している →イベントカレンダーにのせるものではないか 			

地域課題アンケート等で出された意見			第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	
地域コミュニティ	地域の連携、市民活動団体等のネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流や地域振興の支援。多摩区の魅力発掘、失われた価値の再生・再評価、活動団体のネットワーク化等を通じての新しい縁社会の構築。 	<ul style="list-style-type: none"> 登戸駅前コンサートの実施 まちづくり活動発表会「まちカツ!」、まちづくり活動団体交流会「たま★まちカフェ」の開催（区まちづくり協議会） 観光ガイドブックの作成・発行、地域イベントへの参加や広報支援、観光ボランティアガイドツアー（区観光協会） 区民活動支援コーナーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「ネットワーク」を考える際には、何でネットワークをつくるか（どのような仕組みで繋げるか）が重要 	
		<ul style="list-style-type: none"> 多摩区内3大学が地域社会に対して、どのような形で関わり、様々な分野において多摩区の活性化、発展に寄与できるかを考え、文教都市としてふさわしい地域社会づくりについて検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学・地域連携事業（多摩区・3大学連携協議会） 		
	地域のつながりに関わる取組について	<ul style="list-style-type: none"> 商店、商業者から感じることは会話する人が減り、一言も話さない人がどんどん増えている。流通・行政関係からはクレーマーが増え対応は膨大な労力を使う。どこへ向おうとしているのでしょうか。多摩区から発信「思いやりの心」 	<ul style="list-style-type: none"> イベントカレンダーの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 町会それぞれに特色があり、特色に応じた取組が必要 地元の人の顔が見えるつながりづくりが必要 顔の見えるつながりづくり（きずな）⇒そのためのネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 町会、自治会におけるコミュニティづくりが一番重要 町会のあり方、昔ながらの活動（高齢者中心）⇒多様な世代をまきこんだイベント 町会の魅力づくり（お祭り等）が重要
地域のつながりに関わる取組について	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が身近な問題として行政も企業も市民も、地域での取り組みがいろいろとなされていますが、個々の参加や活動は活発に行われているようですが、普段元気で暮らしている青年層や中高年層・新住民の方にも、地域での状況やご近所のお互い様のお付き合いが広がっているのかが、見えません。普段の生活でも顔の見える関係づくりがこれからは大切と考えます。もっと「見える化」と「つながり」を多摩区の状況にあった方法で身近に広げる方法を検討したいです。 コミュニティにこだわらず福祉の面からも見た、リンクできるような、地域にあった身近な「見える化」と「つながり」について検討したいです。 		<ul style="list-style-type: none"> 小さなコミュニティの融合が必要 市、県内で町会加入率が一番低い マンション、戸建て住宅の建築が既存のコミュニティをむしろむ 	<ul style="list-style-type: none"> 町会、商店会 入ると楽しい、いかに入会させるか！ 人不足が課題（活動できない）⇒他の町会との連携が必要 商店主、お客、地元のコミュニケーションのイベント（つながりづくり） 「まちゼミ」の取り組みの拡大・普及 	
市民と行政の協働の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域内で活躍する各種団体と市民、行政とを結びつける方法を研究し活躍をする団体、支援を受ける人、行政の連絡窓口づくり ■市民から情報・意見をもらう、「市民の目」サイト構築 Twitter、Facebook等のSNSで市民が自由に投稿できる仕組みをもっている自治体があると聞いています。今やスマホ、デジカメ/PCは大半の方が持っている時代ですから、これらを使って市民からの情報、意見を画像で受け取ることは可能である。 受け取る情報、意見は自由に制限しないが、市民の意見、災害時の状況通知が想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動発表会「まちカツ!」、まちづくり活動団体交流会「たま★まちカフェ」の開催（区まちづくり協議会） 			

地域課題アンケート等で出された意見				第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	ステップ2. 審議課題になりそうなもの	
地域防災	地域での防災対策の取組、自助・共助のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・広島の高雨での土砂災害をはじめ大雨とそれに伴う被害が全国で相次いでいます。 ・被害の拡大に胸を痛め危機意識も高まっている今、改めて地域の災害対策について考え、見直し、知識を深めることが必要と思います。 ・私は商店会の役員として今春地元の町会の防災訓練に参加しましたが、商売を40年以上やっていて初めてでした。これからは商店会も町会と一体で防災訓練を行い、災害に備えたいと思いました。 ・気候変動による災害への備えも急務なことが明らかになっていますが、各町内会でのそれぞれでできている事や現会員で出来ている事、高齢化や会員の減少、不足でできないで困っている事が見えてきていると思うので、区としてできる対策、必要とされる対策は何かを明らかにして、具体的な政策提案につなげたい。 <p>※町会連合会代表者とも再度意見交換会を持つことや区が把握している現状をまず明らかにして、区民会議での取り組みを具体化したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区版「備える。かわさき」の作成（予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティがしっかりしていれば、安心安全につながる（活発なコミュニティは地域の前提条件） ・防災について3大学との連携が積み残されている（3期でもやった。そなえる川崎 マグネットシール） ・学生を町会にどのように取り込むかではないか ・通常のボランティアと変わらないのでは？ ・区外からの学生が多く、区内居住者は3割程度。学生の安全確保が優先される。その上での地域貢献 ・学生は、結局は地域の1住民であり、地域コミュニティのあり方の問題 ・早稲田でやっているような町会活動への参加を単位として評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の安心・安全を支えるコミュニティづくり ・防災について3大学との連携による防災対策（前期の取組の継続） 	<p>◎地域の安心・安全を支えるコミュニティづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ（町会、商店会、3大学等）の活性化による安心・安全を支える仕組みづくり ※前期の取組の継続・拡充
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災では、前期ではまだ完全な対策でなかった。今後継続して審議したいと思う。 地域防災について自主防災組織はありますが、地域のお住まいの方はどのくらいご存じなんでしょうか。これからも関わっていききたい思います。 <p>■震災発生時の共助（救援）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共助について、第4期区民会議でも検討課題となりましたが、地域の高齢化によりいざという時（発災時）に頼りとなる救助する人員の不足を補う目的で学生達に焦点があたりました。この点についてより具体的な提案とするべく検討をすすめて参りたいと思います。 ・2013年5月に横浜市は、「横浜市災害時自助・共助推進条例」を成立させましたが、その目的は、「この条例は、災害時における市民及び事業者の自助及び共助の理念並びにそれぞれの役割を明らかにすることにより、市民及び事業者の自発的な防災に関する活動の促進を図り、もって災害を軽減する減災社会の実現に寄与することを目的とする」とあり、条例によってそれぞれの立場の人たちが、積極的に防災の推進を行い易くしている。 ・第5期区民会議としても、より災害を軽減する減災社会の実現を可能とするべく、さらなる検討をすすめて参りたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生、高校生、大学生との連携（予定） 			

地域課題アンケート等で出された意見				第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	ステップ2. 審議課題になりそうなもの	
地域防災	高齢者・障がい者の安全な避難について	<ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者を交えた宿泊を含む避難所訓練～障害の理解、啓発と避難所の実地訓練～ ・高齢者の1人住まいが増えている。災害時に1人搬送するのに大人4人が必要である。災害時における高齢者対応が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区地域自立支援協議会の取組隔月で障害福祉に関する課題等についてテーマを設定し、情報交換や交流を行うとともに、より具体的な課題解決のために委員会を設置し活動している。 			<p>⑥地域の安心・安全を支えるコミュニティづくり</p> <p>・地域コミュニティ（町会、商店会、3大学等）の活性化による安心・安全を支える仕組みづくり ※前期の取組の継続・拡充</p>
	災害についての情報収集の方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時の整備は区でもいろいろ予定されていますが、近年の異常気象や災害を想定した状況下も合わせて確認する必要があると思います。 例：昨年大雨で枳形中学校の生徒の多くが、冠水した通学路を裸足になりスポンをまくり上げて登校した、ということもあります。中学校は避難場所にもなることですので、他の小中学校の通学路ではどうだったのでしょうか。“あそこはそうなのよね！”だけではないのでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な防災マップの作成（予定） 			
景観まちづくり	区内を花や緑で飾る	<ul style="list-style-type: none"> ■花壇・植栽の整備・管理を市民に委託 ・その町の顔はやはり駅前・その近辺がその街の印象、景観を決めるであろう。多摩区であれば登戸/向ヶ丘遊園駅が街の顔であろうが、向ヶ丘遊園駅南口近辺の風景は褒められたものではない。（登戸駅・遊園北側は区画整理中でやむを得ないが、それにしてもひどい景観である） ・取り敢えずの試みとして、向ヶ丘遊園駅南口から稲生橋までの間の花壇・植栽の整備・管理を市民にボランティアとしてお願いします。TVのニュースでみたことがありますが、確か品川区では公共の場所の管理を一定の費用を出して市民に委託している例があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内看板の設置、沿道の緑化、花壇の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の管理をする地域人材をどう育成していくか ・花や緑は「維持」が難しい 担い手の確保 ・地域住民の意識改革 ・遊園南口 学生による利用対応 ・近隣住民の好意に頼っている現状 ・何らかグループ化、行政の補助 ・コミュニティの醸成にもつながる ・町内会に種を配布する制度あり（地域振興課） ・まちづくり協議会で小田原視察したが、継続することの難しさがわかった。 ・商店会をまとめることの難しさ ・景観もそれぞれのマナーの問題だと思ふ。 ・生田緑地が孤立している 観光のまちとして未熟 ・文化施設と商業施設との位置付けのバランス ・ボランティア活動の拡大が必要 ・景観と地域活性化は密接につながっている ・新百合ヶ丘との差別化するために多摩区としてアイデンティティを確立する必要はある。 ・多摩区としてのストーリー性が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 花壇の管理・運営のための担いづくりの検討 ・住民、商店街、地元企業、行政が協働で地域の活性化を考える必要がある。 ・多摩区の将来のまちづくりのイメージを考えて、多摩区全体で共有する必要がある。 	<p>⑦景観・まちの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花壇の管理・運営のための担いづくり ・住民、商店街、地元企業、行政が協働で地域の活性化を考える ・多摩区の将来のまちづくりのイメージを考えて、多摩区全体で共有す

地域課題アンケート等で出された意見				第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	ステップ2. 審議課題になりそうなもの	
マナー・モラルの向上	ゴミのポイ捨て禁止の推進	<ul style="list-style-type: none"> 路上へのゴミのポイ捨てが気になります。自販機周辺やコンビニから少し離れた路上に捨てられたゴミを見ることがあります。考えて欲しいです。 		<ul style="list-style-type: none"> 掃除を徹底したりすることで、ポイ捨てなどを防いでいる事例がある 子育て中のお母さんにも自転車マナーの周知が必要（こどもを守るためにも） マナー、福祉の問題は教育の問題 重要なテーマだが、区民会議のテーマとしては取り上げにくい 購入して帰宅途中で捨てている 	<ul style="list-style-type: none"> 路上へのゴミのポイ捨てマナー・モラルの向上への取組 	
自転車のマナー・モラルの向上		<ul style="list-style-type: none"> 多摩区を交通事故の少ない（市で一番の）町にしたい。マナーの悪さ、法規無視、自転車事故を減らしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区内の自転車販売店への放置自転車禁止のパンフレットの配布 駅等でのパンフレットの配布【町会】 	<ul style="list-style-type: none"> 第3期の取組を受けてスクエアドストリート方式の導入（危機管理担当） 法令で取締るべき 法システム上、自転車取締まりの難しさ 自動車、自転車、互いの目線で見ることが重要 自転車＝車両という認識のなさ 親をターゲットにすることを指向→子供を対象に実施 交通事故減はスケールの大きい問題 自動車側から見た自転車のマナーの悪さ 一時停止無視など、自動車側のマナーにも問題あり 学校教育だけではカバーできない問題 交通法規をどうPR、周知していくか 車いす（身障者）も含めたテーマ設定 バリアフリー（ハード整備）も含めて考えては 行政としても積極的な周知が必要、やり方の難しさはある 自転車関連法規の改正について認知度が低い 	交通マナーの向上	<p>◎まちなかのマナー・モラル向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 路上へのゴミのポイ捨てマナー・モラルの向上 交通マナーの向上
		<ul style="list-style-type: none"> 自転車、バイク事故の減少に向けた取組や、ルールを守ってもらうための取組を行いたい。多摩区を自転車事故がない区にしたい。 				

地域課題アンケート等で出された意見				第2回区民会議ミーティングで出された意見		分野の再整理
分野（部会になりそうなもの）	審議課題になりそうなもの（例）	出された意見	関連した取組事例	ステップ1. 追加したい意見	ステップ2. 審議課題になりそうなもの	
自然の保全	失われていく緑を守る方法について	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護については、多摩区だけの問題では無いが、住宅開発等で自然に失われていく自然保全をどう守ればよいか検討を加えるべきと考える。 				<p>◎環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内に残る緑を守るための方法を検討する。 新エネルギーの活用
新エネルギー	官産民の協働で取組む環境負荷の少ない再生可能エネ	<ul style="list-style-type: none"> さつま芋による再生可能エネルギー発電を官産民の協働で取り組むことを提案します。 昨年未、市長に提案させて頂き、市役所環境局地球環境推進室岩上淳課長、伊藤孝夫係長と面談の結果、地域課題として、活動環境がある多摩区で取り組むようにご指導を頂き、車座集会でも提案させて頂き、この度、区民会議委員として提案の機会を頂きました。 区民会議、過去4期の協働テーマは、多摩区民の暮らしやすい地域社会をつくるための議題解決に取り組まれておりました。 この度の提案は、多摩区民のみではなく、日本の農業を活性化することが目的で、農村地域が抱える種々の問題とも関わります。 休耕地、遊休地、耕作放棄地、減反政策解除地等を利活用し、農山村の衰退に歯止めをかけ、農業に収入的な魅力をつくり、後継者不足を解消、雇用を創出し、高齢化による市町村の削減を防止、税収による地域の活性化、農業の都市計画として農業経営者を育てることです。 再生可能エネルギーの事業化には、未来を見据えた持続可能で経済的なエネルギー社会の実現が課題であり、全国的に共有できる仕掛けが必要です。 さつま芋発電は仕組みが出来上がれば、栽培がローテクですから、子孫の代までも未来永劫生産可能で全国どこでも育ちます。 さつま芋によるビジネスモデルを構築し、川崎市多摩区から全国の自治体に発信され、電力の地産地消、地域再生の産業として被災地の復興にも役立ってほしいと願います。 現在、化石燃料の輸入額20兆円を国内に還元し、二酸化炭素の排出量が抑制されま 	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区エコロジライフ事業の実施（エコフェスタ、緑のカーテン） 	<ul style="list-style-type: none"> 区民会議として取組む場合にはレベル感を考える必要がある 少子高齢化など、次世代にエネルギー負荷をかけないようにしたい 多摩区の土質は根菜に不向き 市の取組とも連携した多摩区としての取組の必要性 		